

第2章 サインシステム

2-1 サイン計画の考え方

2-1-1 公共サインの対象者と情報機能

本区の公共サインを取り巻く現状や課題を整理し、本区全域の公共サイン整備計画の基軸となる対象者と情報機能を以下のように示す

ひと

区民へのインフラ情報提供かつ 観光客・来訪者を対象とした情報とサインシステム

～観光客・来訪者の目線で情報提供することは、地域住民にも再認識・再発見できる情報サービスである～

【情報機能など】

- ・掲載基準
- ・多言語対応 ピクトグラム
- ・観光情報
- ・Wi-Fi
- ・鉄道会社管轄サイン情報との連携

もの

既設の東京都観光案内サインと共に存

都指針に準拠しつつ江東区の特性を表現する表示・本体デザイン

【情報機能など】

- ・東京都観光案内サインと連携のとれた情報配置
- ・掲載基準
- ・観光情報
- ・独自ピクトグラム
- ・都市景観構成要素としての本体デザイン

ばしょ

臨海部と既存市街地の土地特性に合わせたデザインシステム

バス路線との連動性

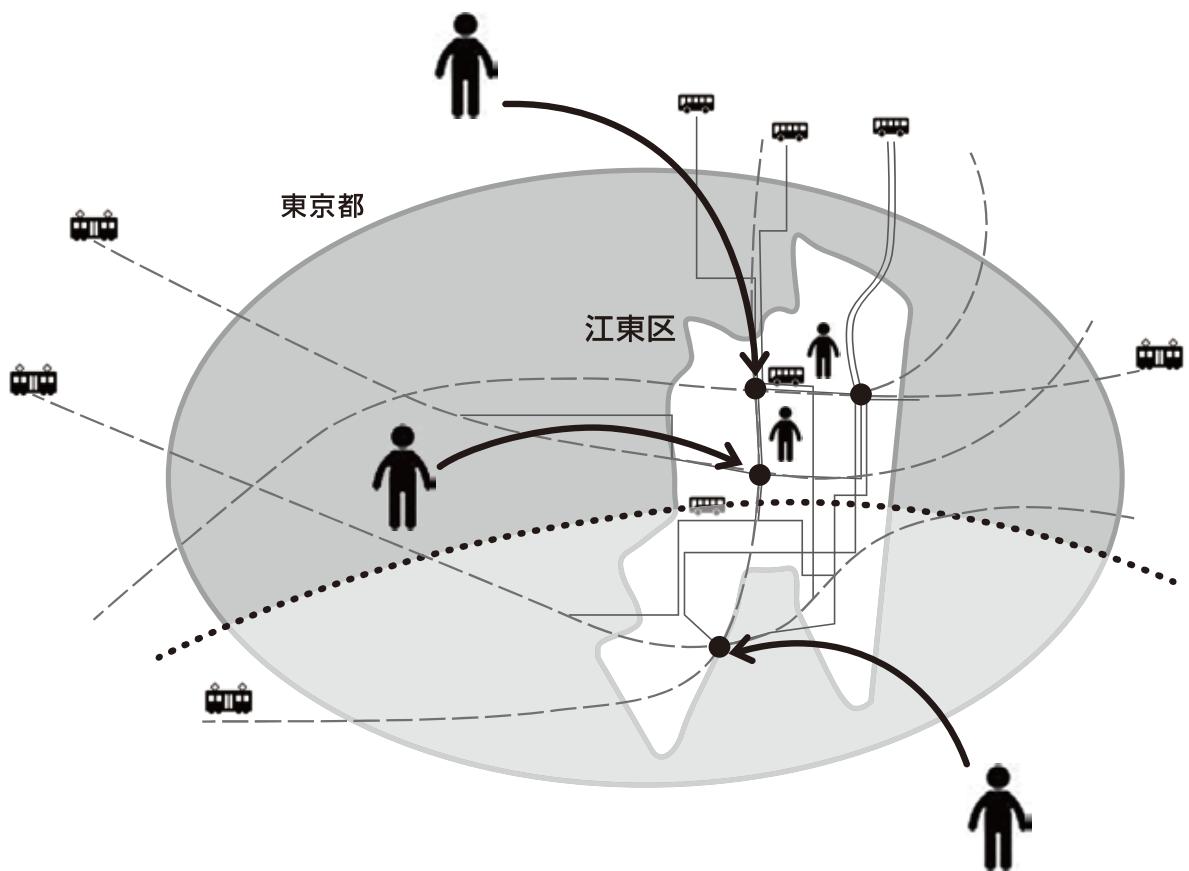
【情報機能など】

- ・案内図掲載範囲
- ・バス情報
- ・東京都観光案内サイン
- ・東京 2020 大会関連情報や開催後の情報

2-1-2 情報提供の考え方

公共サインの情報提供の考え方は次の通りである

- ・観光客や来訪者を対象に、行動起点となる鉄道駅（区内28駅）及び区内観光案内拠点（深川東京モダン館、亀戸梅屋敷）、不特定多数の集客力のある公共・観光施設（東京ビッグサイト、豊洲市場、深川江戸資料館など）を起点として、公共サインを配置する
- ・都指針に準拠・整合をとり、都内観光地や近隣区との連続性を創出することで利用者がわかりやすい情報を提供する
- ・臨海部エリアと既存市街地エリアの特性に合わせた情報提供をする
- ・鉄道駅構内における周辺案内情報との整合や連携を考慮する
- ・バス路線情報との円滑な連携あるいは情報集約化



2-1-3 情報の種類

区の骨格動線上の主要行動起点（駅、集客力の高い公共・観光施設など）となる場所から目的地まで段階的にサインを設置し、連続したわかりやすい情報提供のできる配置を行う

■情報の種類

・インフォメーション・マーク (iマーク)



・広域案内地図 1/6000 3km 四方程度



・周辺案内地図 1/1000 1km 四方程度



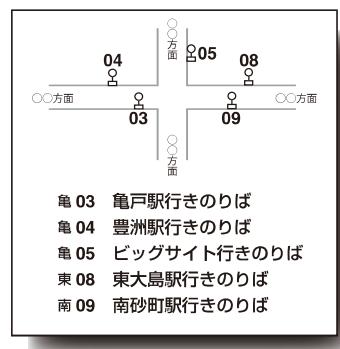
・誘導情報



・観光施設解説



・バスのりば案内情報

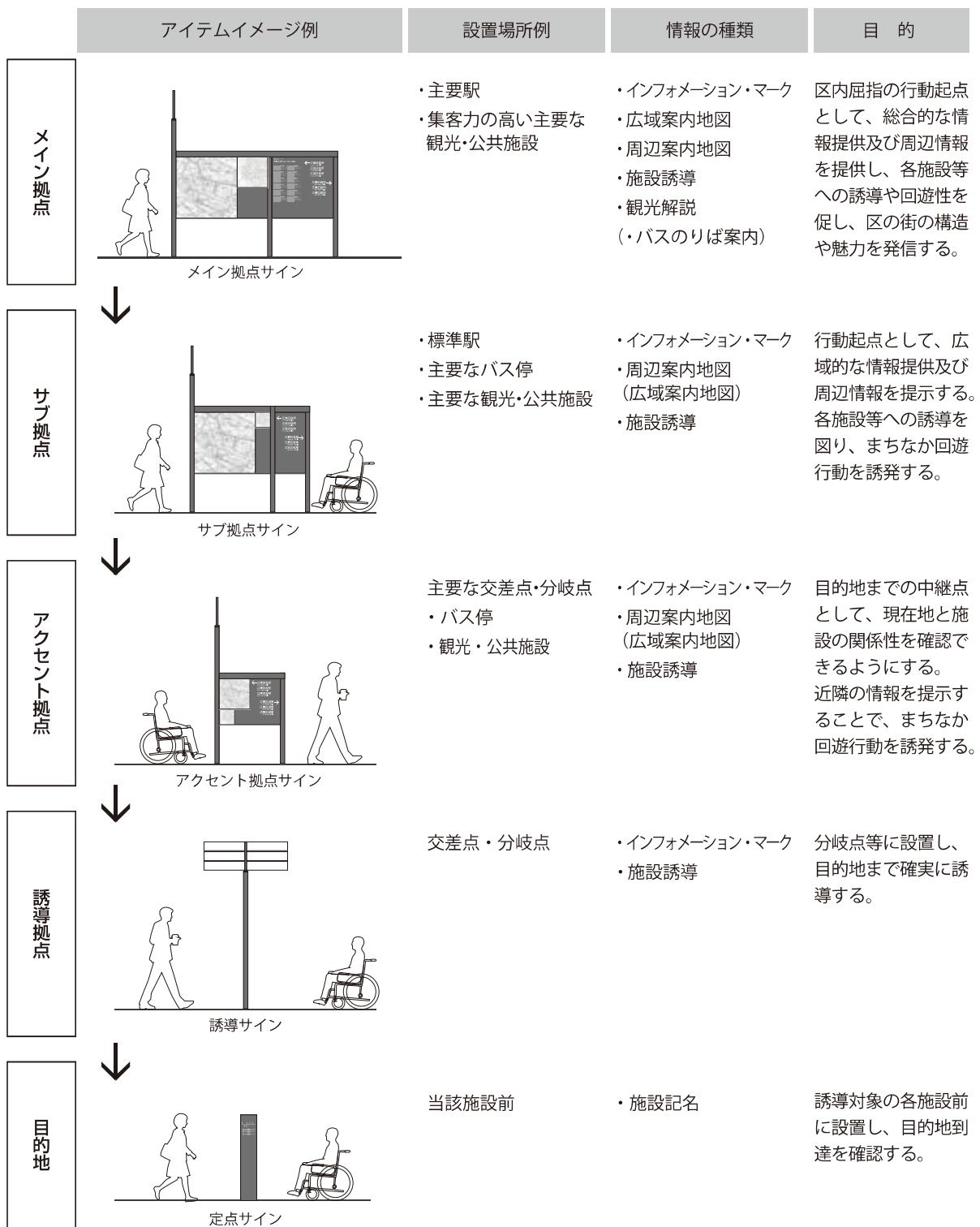


・施設記名

江東区文化センター

2-1-4 サインアイテムの基本システム（案内誘導のシステム）

行動の起点となる施設にメイン拠点となるサインを設置し、目的地到達まで段階的にサインを配置することを軸として、街の構造や特性によってサブ拠点やアクセント拠点を階層的に配置することを検討する

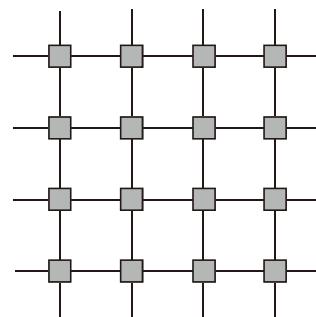


2-1-5 サイン配置計画

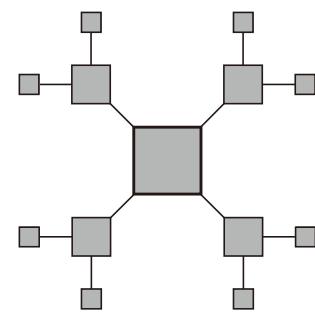
サイン配置には、一般的に投網配置、階層配置、線状配置の大きく3つの配置方法がある。当ガイドライン・整備計画においては、線状配置を基盤として、より機能的な階層配置となることを目指すこととする

配置の基本型

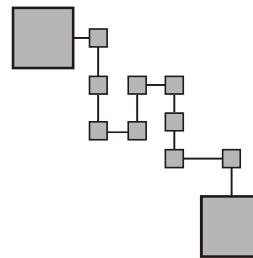
・投網配置



・階層配置



・線状配置



凡 例



移動の起点・終点



移動の中継点 -1



移動の中継点 -2

—— 利用者動線

2-2 整備計画の考え方

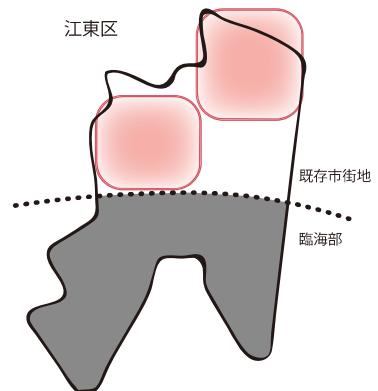
公共サインの整備計画は、平成30、31年度の2ヵ年で行う

2-2-1 整備対象の考え方

整備対象地区（エリア）の選定を次の3つの考え方で検討する

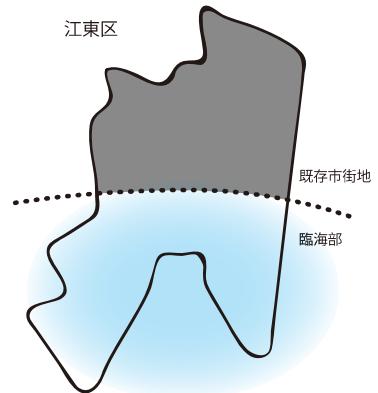
1. 既存市街地の観光エリア

区を象徴する、あるいは知名度の高い観光施設を抱有し、多くの観光客・来訪者が訪れるエリアを重点的に整備していく考え。既存市街地の深川・城東地区には、歴史的、文化的な観光施設、観光資源が多く集まる観光エリアがある。エリア内では各施設を分かりやすく案内誘導するとともに回遊性を高め、エリア全体の賑わい創出に寄与することが求められる。



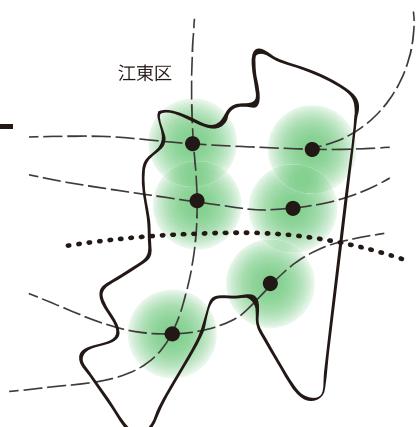
2. 臨海部エリア

東京2020大会で海外から多くの来訪者対応を見据えて、大会会場予定地を含む臨海部エリアを優先的に整備していく考え。東京2020大会の競技会場予定地や、国際展示場等、集客力の高い施設が点在する臨海部エリアは、東京2020大会前までに、海外からの多くの来訪者を受け入れるための整備が求められる。都管理地が多いため、東京都観光案内サインと連携した整備が必要である。



3. 行動の起点（駅）を中心とした周辺エリア

観光客・来訪者が本区を訪れる際の玄関口となる鉄道駅の出口と周辺エリアを重点的に整備する考え。来訪者が目的地まで円滑に移動するためには、重要な行動起点である鉄道駅の出口において総合的な情報提供を図り、駅周辺において、目的地までの適切な整備が必要である。



2-2-2 整備対象地区等の選定

以下の理由により、整備対象地区（エリア）及び行動の起点（駅）を選定するものとする

1. 既存市街地の観光エリア

門前仲町駅を起点とした深川エリア、亀戸駅を起点とした城東エリアは、多様で魅力ある景観資源が点在するなど、主要な観光施設の行動起点となっているため、需要が多く、効果が大きいと考えられる。

2. 臨海部エリア

該当エリアである臨海部用地は大半が東京都の管理であるため、本区が主体的に公共サインを計画・整備するためには都との調整が必要である。東京2020大会開催時は暫定的なサインが設置されることも予想されるため、進捗状況をみながらの整備となる。

3. 行動の起点（駅）を中心とした周辺エリア

本区に所在する鉄道駅は9路線28駅あり、23区内でも比較的所在駅が多い。主要な観光施設の行動起点となる駅については、より早期の整備が求められる。

よって、平成30・31年度の整備は以下のように進めるものとする

【平成30年度整備対象】= 1. 既存市街地の観光エリア

深川エリア、城東エリアの約3km四方範囲内を整備する

【平成31年度整備対象】= 2. 臨海部エリア、3. 行動の起点（駅）周辺エリア

上記1. 観光エリア以外の臨海部エリア、主要な行動の起点（駅）を中心とした周辺エリアを整備する

2-2-3 整備手法

各駅を起点とした目的施設（掲載基準に基づく）への線状配置による誘導整備、エリアによっては階層配置によって面的な案内誘導整備を行う。

また、新規整備に合わせて、地域振興課が管理するみちしるべサインと区民課が管理する街区表示案内板を順次撤去していく（代替のサインが必要な個所については、適宜対応する）。

第1期（H30年度）整備イメージ

